

弥生地区「住みよいまちづくり」に向けた集い  
令和2年度第3回定例会（第20回）報告

日 時	令和2年8月23日（日）午前10時～11時45分
場 所	わくわく健康プラザ 集会室1
担 当	司会：山口信夫 記録：事務局
参 加 者	12人（敬称略・順不同） 〈地区5名〉 山口信夫、佐々木智恵子、沖原寧子、加藤京子 瀧田寿美恵（オンライン参加） 〈関係者4名〉 市福祉総務課 明日係長、市防災防犯課 井上主査 西部地域包括支援センター 野島生活支援コーディネーター 多摩の里けやき園 金井島施設長 〈社協3名〉 大澤次長、岡野主査、江連
配布資料	(1) 次第 (2) 小平市防災マップ（弥生地区 抜粋） (3) 弥生地区地図 (4) 会則（案） (5) 令和2年度 地域協働事業チラシ (6) 弥生地区オンラインお茶会チラシ

## 1 関係機関紹介（7人）

## 2 自己紹介

- ・山口：初めて眠れない日々が続きました、余計なことを話す山口です。よろしくお願ひします。
- ・瀧田：瀧田です。ZOOM（オンラインサービス）が便利ということで、今日は家から出ないで横着して参加しています。よろしくお願ひします。
- ・沖原：沖原寧子と申します。弥生のオンラインお茶会をさせていただいています。参加しやすいようにまだ大勢の方にお声かけはしていません。こうして瀧田さんをはじめ、色々な人とお知り合いになれるので隔週2回はとても楽しいです。おしゃべりを楽しませていただいております。皆さまのお世話になることも多かろうと思ひますが、どうぞよろしくお願ひします。
- ・佐々木：弥生台自治会の佐々木です。いつもお世話になります。この時期は体の不調が起こります。早く涼しくなるといいなあと思ひています。本日はよろしくお願ひします。
- ・加藤：弥生台自治会の加藤です。なかなか日曜日は時間が取れず、毎回欠席してありますが、今日はオンラインでつながりながらということで、参加させていただき

ました。よろしくお願ひします。

- ・山口：社協より資料の説明をお願いします。
- ・江連：みんなで役割分担をしながらすすめるということで、本日の司会進行は山口さん。記録をしてくださる方いますか。いなければ暫定で事務局が担います。会場確保は、次回けやき園での開催であれば手続きをお願いします。毎回お配りしている次第も、様式になっているので作成のご協力をお願いします。

資料について、小平市が作成した防災マップですが弥生地区を抜粋して編集したものです。近隣の避難所として小平第六中学校や第11小学校など示してあります。前回、室内ではなく外で顔の見える関係づくりができる「防災まち歩き」実施のアイデアがありましたので参考に配布しました。

続いて、弥生地区内の世帯数・人口です。平成30年度から2年たつて今の世帯数などをまとめたものです。全体として高齢化率は30%を超えています。

次に、弥生地区オンラインサロンのご案内です。今日のように実際に顔を合わせる参加者とオンラインで参加する人を一緒にした、ハイブリッドとも言われていますが、市内では初めての取り組みではないかと思ひます。

### 3 オンラインお茶会、コミュニティについて

山口：今年度の取り組みについて。まずは沖原さんからオンラインのことについてお願ひします。

沖原：私の方からは、こういうことがあります、こうことができます、こういうやり方があります、やってみたい、ご興味があればやり方をご説明しますというものです。抵抗のある方に無理に押しつける取り組みではありません。スマホデビューしたいなど、お気軽にお声がけください。

山口：正直言ってコミュニティがあまりないです。滝山を歩いている方は女性ばかりです。こういうのを使つてうまく何かできないかと思ひます。

加藤：近所にお茶のみをするおじいちゃん友達がいます。東京街道沿いのお店に週1回コーヒーを飲みに行つている。暇だと週2～3回は行つています。火曜日の午前中に外に出て、通りで会つて「じゃあ行きましよう」という感じです。

山口：そういう雰囲気があるのはいいですね。男性はなかなか出てこないですよ。草むしりをして女性しか出てこない。

佐々木：何かしらの会に入つていると男性の参加もありますね。主人がやっている剣道では男性と子どもばかりです。お手伝いのお母さんに女性はいますが9小で一緒にやつています。他には西部地域センター内にある滝山地区センターには、お風呂入りに来る方など男性陣もけっこういます。剣道は竹刀一本持つて、肩上げれば肩こりも治ると。ちなみに9小の剣道は好きなことばかりしてつています。強制しない。初心者から幼稚園児、高齢者の方までどなたでもいます。その方のレベルに合つたことをすればいい。袴もいらなつし服装も気にしなついで、竹刀の振り方だけでも、それだけで運動になる。

山口：男は会に入つていると行きやすいけど、入つていないと行きにくい。

佐々木：あとは図書館くらいでしょうか。自由に出入りができる。また、老人会とかで音楽会とか、前沢の方に大きいのが。今年はやらなつけど、滝山のお祭りのとき

にフォークダンスとかやってみたり。いろんな踊りをやっている。分からないけど会員が100人以上いるとか。

大澤(社協)：例えば、シニアクラブ滝山青葉会の会員が増えたのは、カントリーダンスです。カントリーダンスをやりたいというのがきっかけでメンバーが増えたとのこと。体を動かすものばかりでなく、手芸などもあります。楽しめるメニューがたくさんあります。

佐々木：お声がけしてみるのも手かもしれない。参加することに意味があるという感じなので連絡してみるのもいいかもしれない。

山口：行ってみると近所の人とかいるかもしれないですね。きっかけですね。

沖原：急にしんどくなって行かなくなることもありますね。私の印象だと75歳を越えると厳しくなるイメージです。急に面倒になってしまう。

佐々木：体力が落ちるか。新しい環境に慣れるのに戸惑うような年齢ということもあるかもしれない。誰か一緒に行ってくれる人がいると良い。一人だと行きにくい。山口さんに誘われれば、じゃあ一緒に行くか、ということになるかもしれない。

山口：でも断られてしまう。色々あるけど、どう誘えばいいかなと。面倒なのが嫌だと言われてしまう。この集まりで雑談しているだけで良いのですけどね。

沖原：話をしなくなると、どんどん話さなくなってしまう。ご自宅から出るのが難しい場合には、オンラインでおしゃべりができるといいですね。

山口：テレビでオンラインで会話している様子を見ると、一対一じゃないですか。一対一だと話が続くかなと心配になる。一対一で話すのはつらいが、オンラインでは何人くらい同時に会話ができるのか。

沖原：一画面に30人が映ります。

山口：それだと、ちょっと席を外しても目立たなくてよいですね。

沖原：無料で使えるプランだと、3人以上で40分までの利用制限があります。

佐々木：参加人数の上限はあるのですか。

沖原：上限はプランによって違う。無料プランでは100人まで大丈夫だったかと思えます。

山口：誘うのも大変だが、誘われる側もストレスを感じるのかなと思って。

沖原：参加したいのかしたくないのか、こちらから分からないから、参加したくない人に声をかけてしまうとね。痛い思いがありますね。

佐々木：痛いと思っても、繰り返し何度か声をかけていると「いってみようかな」という気持ちになることがある。何回も誘われていると、一回は行ってみないといけないかなという気持ちになることもあります。

沖原：はげみになります。続けていこうと思います。

佐々木：健康課がマップ(わくわく歩くるめマップ)を作った。歩くと何kmぐらいかくらい分かる。このコースに行ってみましょうとか、季節が良くなったら行ってみましょうよとか、イオンの近くだからとか、何かしら気が向きそうなところにお誘いしてみるのも良いのではないかな。4コースあります。

沖原：今回、オンラインお茶会のチラシを配るのに、初めて弥生地区を歩いてみたんですけど、知らないお名前がたくさんありまして、こんなに知らないんだということに初めて気がつきました。

加藤：迷子になりますよ。増設したところや新しい家がたくさんあって。歩き慣れないと近所でも迷子になります。

山口：私もチラシを配るとき、こんなところに神社があるんだと初めて知った。神様がいるのだと、妻を誘って歩いてみたんだけど、みんなで歩いてみたら楽しいだろうなど。

佐々木：節分のときは豆まきがあって争奪戦になります。小さい子もたくさんいて危ないぐらいです。

山口：知らないことがあるなあ。

沖原：全部つながるのですね。知り合いになれば、声かけができて、ちょっと寂しいから一緒に行ってくれないかしらと声をかけられる。お孫さんができたら、孫の話でつながれる。共通項目が見つかるにつながっていきける。そこからお困りごとがあればわかるし、なにかやろうかと周りもなるので、それをどうやってかたちにするかですね。

### 3 今年度の取り組み

#### (1) お買い物ツアー

山口：昔、埼玉県の志木市にいた頃に青少年相談員の活動があって、10人程度の実行委員を募り、毎月何をするのか、それを実行するためにはどうしたらいいのかを話し合い、学校と協力してチラシを配ったりした。そういうものを弥生の住みよいまちづくりにかかせれば良いのかなと思います。最初は誰も来ないかもしれないけど、声をかけて市や社協にチラシを配ったりして、協力してもらいながらやっていけたら良いなあ。ただ皆さん忙しいですし、今はコロナで制約がある。

沖原：お買い物ツアーは、車にみんなで乗るから難しいですね。

佐々木：行けてもイオンくらいですね。

沖原：若い世代に乗せてもらっても、うつったりうつされてもがあるから厳しい。そうすると、安全にできるのは「防災まち歩き」かと。疲れたら途中で帰っても良い。

佐々木：バスに乗れば武蔵小金井は行けるのでは。武蔵小金井に大きい新しい施設ができたじゃないですか。

瀧田：武蔵小金井駅南口の高層マンションの中にある商業施設で、都心にあるようなお店が入っているみたいです。

佐々木：バスなら一本で行ける。70歳以上はシルバーパスで無料でいける。

沖原：荷物を持ってあげる方が一緒にいった場合は交通費を払わないといけないか。

佐々木：連れていくのではなく「一緒にお買い物しましょう」が楽しいですね。

沖原：男性にはリュック背負ってもらって、荷物持ちで参加してもらえばいいですね。

佐々木：集合も「駅に何時」とすれば、男性も抵抗なく参加しやすいかも知れない。

#### (1) 子どもたちやご近所への声かけ・あいさつ

加藤：今、子どもたちに挨拶は難しいです。知らない人から声かけられると子どもからお母さんへ報告、お母さんから学校へ報告となっている。不審者扱いされてしまう可能性が高い。やはり腕章なりつけて、不審者ではないことがわかるようにしな

いといけない。そうでないと受け入れられない。腕章をつけている様子を見て、不審者が同じように声がけする可能性があるから、それを心配する保護者が多い。

沖原：そういった心配があるんですね。

加藤：声がけしてもらうのはありがたいけれど、でも本当にその人が大丈夫なのか。それを模倣した不審者なのではないか、という不安が大きい。私は新一年生のサポネットを手伝っていますので、顔はわかっていますが、大きくなってしまったら、おかえりの声がけはしません。実際に事件があったじゃないですか。PTA会長による事件が。それから一層保護者の不安が深まってしまった。よほど知っている子ども以外は声がけはやめようとなってしまう。

山口：西中でパトロールしていますが、挨拶してくれません。

加藤：9小の朝の挨拶パトロールも腕章しています。加えて旗（交通横断の黄色い棒）を持っています。それで自転車の人にも通行人にも、地域の人にも挨拶しています。旗を持っていないと、この人誰だとなってしまう。

山口：保護者の方も挨拶をしてくれたら。

加藤：顔がわかってもらえれば。

山口：西中の遊歩道の掃除をしていると、通行人はおじいさんやおばあさんばかりだから挨拶をしなかったら逆に「ご苦労さま」と声をかけられます。お互い挨拶ができた方がいいですね。

佐々木：ベストはどのくらい費用がかかるのか。

沖原：Tシャツでもいいですね。「声がけ隊」と表示して。

佐々木：タスキもいいのでは。

加藤：腕章とかタスキとか、すぐに身に着けられるものが良い。

沖原：Tシャツなら980円くらいで文字が入れられるのでは。タスキとか腕章の方がもっと安いのか。

佐々木：腕章なら100円でできるか。

沖原：財源はどうしますか？

佐々木：各自で買えばいいのでは。小学校でも保護者は買っている。

沖原：実現できそうじゃないですか。

山口：あと時間ですよ。

加藤：登下校時間がいいですが、下校時間は学年によってバラバラです。時間割が分からないと。もしくは「愛の一声運動」でパトロールをすとか。あとは夕暮れか。

沖原：腕章に「何時から何時まで挨拶しましょう」と印刷して配り、やりたい方は家から出てきてやってください。どなたもいないときもあるかもしれませんが。折角だから今年度ひとつでも形にできると良い。次回サンプルになるものがあれば持ってくる。

佐々木：どこでも使えるような腕章にするなら「ひがしくるめご近所声かけ隊」とかの文言を入れて目立つものがあるかと思う。犬の散歩の時に防犯見回りする活動があった。あれはどうしているのか。

加藤：学校のボランティア分だけ配られるのか。

佐々木：まずは挨拶から始めてみましょう。

山口：中高生も参加してくれると良い。埼玉県ではジュニアリーダーがいる。地域の

ために掃除したりする。後々はそういう子が参加してくれると良いですね。

井上 (防災防犯課)：市として自主的な防犯活動をすすめている。腕章などは見本として次回もってきます。実際に活動する場合は、勝手にやるのではなく、学校側に趣旨を伝えて了解をとっていかないといけない。

## (2) 会則づくり

沖原：まずはかたちにしてみましょ。あと必ず話し合わなければならないのが会則についてですね。

江連：団体登録や補助金を活用する時に必要になります。配布しているものは案なので、皆さんで話し合っどうするかを決めるものです。

沖原：会費は集めないと会にならないのか。

江連：自主財源が無いとなると継続が難しいかと思います。自主財源の確保に資源回収をしているところもあります。様々な方法があると思います。

山口：会費で運営できればそれが一番いいですね。

沖原：自治会費もありますからね。

佐々木：昔は集会所で餅つきをした。防災訓練でおにぎりなんかも作りましたね。

山口：やるとなると備品がどこにあるか、借りられるのか。それを把握している人がいないから面倒になっているようだ。

加藤：防災ではアルファ米などの非常食づくり。何度かお手伝いしています。あれはできる人が多いほうがいいから参加する人も多い。新しい方にもどどん一緒に参加してほしいと思っています。アルファ米を活用する場合は消費期限があります。ただ今はコロナの状況なので、なかなか食べ物の活動は難しい。

佐々木：弥生台自治会にテントがあります。組み立てられる人がいないと出来ない。

加藤：練習がてらテントを建てて、その下で災害用のかまどを出して、期限の近い備蓄品を集めてやるのはできますね。ただ今年は人が集まることがだめになっている。

佐々木：やろうと思えば弥生台自治会の集会所が使える。平日でも良い。

沖原：できるようになったらやれるように会の準備しましょう。

佐々木：会費は返金なしの年間いくらと決めてしまったらどうか。

沖原：お金がかかるとどうでしょう。

加藤：会費があると参加する人が集まらなくて厳しいと思います。

佐々木：自治会から出してもらえないか。

加藤：そうすると自治会に入っていない人が参加できなくなる。

江連：会費は金額を定めず、行事や準備するものによって必要に応じて集めるとしても良い。

沖原：活動毎に補助金など申請ができるという認識で合っているか。

江連：社協の地域協働事業は、自己財源の有無を問わず上限5万円まで活用できるが会則と会員名簿が必要になります。

佐々木：会費は無し、名簿登録で会員というかたちなら人数は増やせるか。

沖原：次回は会則のことを話したいので、皆さま来てくださいと連絡しましょう。

瀧田：会則をつくって新しい会を発足しようという話ですね。

沖原：社協がやってきたことを引き継いで継続していこうということです。

瀧田：「住みよいまちづくり」の会がそれになるのですよね。今までは社協が招集してやっているものを引き継いでいく。そこで会費はどうするかという話ですね。

沖田：会費はない方がいいよねという話です。今日は少ない人数なので、次回みんなで話し合おうということなんです。

瀧田：「住みよいまちづくり」の会が新しいかたちになっていくのですよね。今まで様々な人たちが参加していたから、その人達は入ってくれると思う。

沖田：社協すすめるのはいつまででしょうか。

江連：今年度1年をかけて引き継いでいきたい。来年度からは、皆さまによる集まりに社協は側面から協力する関わりとしたい。自主的な取り組みを立ち上げる際は資金が心配になりますが、地域協働事業の目的のひとつに地域を良くする担い手を増やすことがあり、この集いは合致する取り組みなので有効に活用していただきたい。

佐々木：寄付金はいつでも受け付けるとして、会費無しで始めるとよいか。

加藤：ボランティアをする気があるのに、会費のせいで辞めてしまう方が多数だと思う。今は会費に関してすごく敏感になっている感じがする。

### (3) 防災まち歩き

佐々木：みんなで散歩みたいな感じでできたら良い。

山口：排水溝があふれているところ多いですよね。また、雪が降るとお年寄りが住んでいるお宅が続いていると雪かきが出来ていない。それまで快適に歩いていたかと思うと雪がそのままあって。日影があるといつまでたってもそこに雪が残ってしまう。そういうのも歩いたときに分かるという。

沖原：雪がそのまま残っていれば、ここには雪かきが出来ない人がいないのかもしれないと気にすることができますね。

佐々木：そうやって気に留められる人がいて、手があいている人がやってあげられるといいですね。私も子どもが小学生の時は、スコップを持って歩道橋を雪かきしていました。

#### 【次回の会場借用】

喜村秀子

#### 【開催案内等の配達】

石川勝一、喜村秀子、佐々木智恵子、和田きみ、山口信夫、杉本博嗣、矢島美保子  
沖原寧子

(次回) 10月18日(日) 午前10時から11時半

場所：多摩の里 けやき園 地域交流スペース (弥生2-1-18)